



新潟中越地震

第4の断層判明

本震15分後の余震原因

新潟中越地震は、本震・余震に関係する地下の断層が少なくとも四つあることが15日、京都大と九州大の共同研究で明らかになった。東大地震研究所などの調査で三つの断層の関与が分かっていたが、本震から15分後のM6.0の余震はこれらとは別の断層によるものと判定された。一帯の地殻構造が複雑なため、強い余震が誘発される原因にもなっている。

15日に開かれた地震予知連絡会で報告された。研究チームは地震直後から栃尾市、小千谷市、山古志村の3カ所に地震計を設置し、8日まで余震

を詳しく観測した。気象庁の観測データと合わせて余震の震源分布図を作成したところ、震源が四つの領域に分かれていることが分かった。

新たに見つかったのは本震を起こした断層と交差する東に深い逆断層。本震から15分後の余震の震源になった。京大防災研の飯尾能久助教授(地震学)は「本震が引き起こした地下の岩盤のひず

みによって、この断層が動いたのだろう。同じ理由で震源の浅い余震も多発している」と話す。

気象庁によると余震は徐々に減っているが、予知連絡会長の竹政和・東北大名誉教授は「複雑な地形が起した複雑骨折のような地震で、断層はこれで全部ではないと思う。今後の地震活動を注視して見守る必要がある」と話す。【中村牧生】